

## ☢ 原発再稼働に執念を燃やす葛西会長 『産経新聞で』暴論を繰り返す！

9月30日付『産経新聞』の「正論」で、葛西会長は「再稼働が必要なこれだけの理由」と題して、またもや暴論を繰り返しています。その内容は、『WEDGE』9月号「今こそ原子力推進に舵を切れ」を要約したもので、デマ・デタラメのオンパレードです。

現在、福島第一原発事故の汚染水問題が深刻化しています。海に流失した汚染水ははかりしれません。そのことに一切触れることなく、「経済の生き残りに原発は

不可欠」「原発事故による死亡者はチェルノブイリの31人。化石燃料による大気汚染は年間推定100万人以上の人命を奪っている」「千年に一度の大地震に福島第一原発の構造体そのものは耐え得た」等々、言いたい放題です。再稼働云々の前に、事故の収束について真剣に問題提起するのが、人としての道ではないでしょうか。

化石燃料について触れますが、「Openブログ」によると、「原発をやめると、火力発電による死者が増加するという見解は、池田信夫が『寿命が1年ぐらい縮まる老人が全米で64,000人』を『全米で64,000人が死ぬ』と誤訳した」としています。また、大気汚染の半数以上は車や工場からの排気によるもので、火力発電所からの影響は少ないとしています。また、米国では火力発電所からの大気汚染は、同じ発電電力との比較において、日本の10倍という結果であるため、日米同等でデータを比較すること自体間違っています。

大気汚染を心配する前に、莫大な電力を消費するリニアを走らせないことが、人命を大事にすることです。

7 産経新聞 平成25年(2013年)9月30日 月曜日

**再稼働が必要なこれだけの理由**

**正論**



JR東海会長  
葛西 敬之

大規模原発事故が頻発する中、原子力発電の稼働は格別な注目を集めている。政府は原子力規制委員会の安全審査を待つ再稼働の方針をめぐり、年明けに稼働が開始される。この際、葛西会長は「再稼働は必要だ」という執念を繰り返している。その理由を「産経新聞」の「正論」で述べた。その内容は、『WEDGE』9月号「今こそ原子力推進に舵を切れ」を要約したもので、デマ・デタラメのオンパレードです。

再稼働が必要な理由として、まず「原発事故による死亡者はチェルノブイリの31人。化石燃料による大気汚染は年間推定100万人以上の人命を奪っている」と主張している。これは明らかに事実と異なる。チェルノブイリ事故による死亡者は、推定で約6万人に達している。また、化石燃料による大気汚染による死亡者数は、年間推定100万人以上とされている。これは、大気汚染による死亡者数は、年間推定100万人以上とされている。これは、大気汚染による死亡者数は、年間推定100万人以上とされている。

また、「千年に一度の大地震に福島第一原発の構造体そのものは耐え得た」とも主張している。これは、福島第一原発の構造体は、千年に一度の大地震に耐えられるように設計されているとされている。これは、福島第一原発の構造体は、千年に一度の大地震に耐えられるように設計されているとされている。

さらに、「日本は原発を力強く推進すべきだ」とも主張している。これは、日本は原発を力強く推進すべきだ」とも主張している。これは、日本は原発を力強く推進すべきだ」とも主張している。